

高等学校の同時双方向型の遠隔教育の実施状況について

平成27年4月に制度改正が行われた高等学校における遠隔教育については、離島・過疎地等の生徒に対する教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会の提供を目的に実施されている場合等がある。

平成28年度では、公立23校、私立1校の合計24校において遠隔教育が実施された。

例：長崎県豊玉高等学校¹の場合

①遠隔教育を導入した背景・目的

長崎県では、少子化に伴う若年者の減少により、高等学校に通学する生徒数も減少傾向にある。特に離島地区13校の高等学校（定時制を含む）では、生徒数の減少が顕著であり、今後も更に減少することが見込まれている。

生徒数の減少は、同時に教職員数の減員にもつながり、その結果、各教科・科目などの知識を有する教員を十分に確保できない状況が生じている。例えば、豊玉高校においては、授業時間数が少ない芸術科については、遠方の対馬高校の教員に兼務発令を行い、遠隔授業も活用して対応しているところであり、離島地区や過疎地区における教育機会の確保を図ることが喫緊の課題となっている。

また、豊玉高校では、複数科目の履修が必須である地理歴史科・公民科や理科について、本来地理歴史科・公民科で3人、理科で2人の計5人の専門科目の教員の配置が必要であるにも関わらず、それぞれ1人ずつしか配置できない状況であり、今後それらの科目についても遠隔授業を実施する可能性がある。

このような状況の下、長崎県では、離島・過疎地等の生徒に対する教育機会の確保を目的に、ICT機器を活用した遠隔授業システムによる授業のサポート体制の整備に取り組んでおり、文部科学省の「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」を受託し、実証研究を行っている。

②遠隔授業の実施状況

長崎県豊玉高等学校では、Web会議システムを用いて、実技を伴う教科である「芸術(音楽)」の遠隔授業を実施している。(1年生23名が受講)

○音楽を選択した理由：

- ・離島地区などの小規模校においては、音楽の教員配置が難しく、他校の教員に兼務発令を行うことによって対応しており、担当教員の移動負担を軽減するため。

○著作物の利用行為例：

- ・受信側は事前にメールで配付資料を受信し、印刷して生徒に配布する。
- ・授業に用いる教材をWeb会議システムを用いてライブで配信。
- ・歌唱・ギターなどの実技指導において、配信・受信側で相互演奏を行なう。

¹ 平成27年度「多様な学習を支援する高等学校の推進授業」研究報告書（長崎県教育委員会 平成27年2月）

【授業実施例】

対面授業同様，教師の指示にあわせて，調べ学習・グループワーク・実技指導などを実施

【音楽科】ギター指導授業概要	
対馬高校（配信側）：教員	豊玉高校（受信側）：生徒および支援教員
①コード奏復習を指示 ④リズムを変えて練習するよう指示 ⑥付点リズムを織り交ぜた練習を指示 ⑧16分音符のリズムでの練習を指示 ⑩リズムどおり演奏できているか互いに確認するよう指示 ⑫全体で合わせた演奏指示	②押さえるべき弦を確認する。 ③コード移動はスムーズかを互いに確認する。 ⑤8分音符ごとにアップダウンを交互演奏する。 ⑦Cコードで付点のリズム練習をする。 ⑨ゆっくりでもいいので，テンポを変えずに練習する。 ⑪ペアの人に歌ってもらいながら練習する。 ⑬全体演奏

(参考)

○豊玉高校生徒数

1年23人，2年24人，3年15人 ※平成29年5月現在

○豊玉高校教員数

校長1・教頭1，教諭等10，養護教諭1

豊玉高校の科目別教職員数：

	国語	地公	数学	理科	保体	英語	計
教諭	2		2	1	2	2	9
講師		1					1

○豊玉高校での授業風景

